

白楊ヶ丘 札幌

No.27 平成23年7月1日
白楊ヶ丘同窓会札幌支部
(〒060-0061 札幌市中央区南1条
西11丁目 TS札幌ビル
公認会計士・税理士 酒井純事務所内)

総会にむけて

支部長代理 荒川 伸夫



同窓の
皆様方
におかれ
ましては
お
変りなく
お過ごし

のことと存じます。

同窓会の活動には常日頃ご協力
賜わり心より感謝申し上げます。

この三月十一日に発生した東日本大震災において、犠牲になられた方、被災された方には哀悼の意を表するとともに、早期の復興を切に願うものです。特に函館は東北地方と関係の深い地域です。会員各位の関係者にも被害に遭われた方々もおありかと想像します。心よりお見舞い申し上げます。顧みますれば、我が函館もまた

災害に幾度となく打ちのめされた歴史を抱える街です。特に昭和九年の大火では三、〇〇〇名近くの市民の方々が犠牲になられ、十万人が被災されたとのことです。諸先輩にも実際に被災された方もおられると思います。往時のご苦労を痛感する次第です。しかし、函館市民のすごいところは、翌年の昭和十年に、今函館の一番のイベントである「港祭り第一回」を開催したことです。打ちひしがれていた函館をお祭り気分一新、邁進していく姿は今我々に勇気を与えてくれる史実ではないでしょうか。

さて、支部長代理を仰せつかった一年がたちます。無事今年度の総会を迎えることができますこと

は感謝に堪えません。諸先輩はじめ多くの会員の皆様の同窓会活動に向けていただく熱き思い、ご協力のお陰と感謝申し上げます。

函館中学時代、戦後の学制の移行期、小学区制の中部高校、大学区制になってからの中部高校、同じ「函中」であってもとらえる意識が違ってくるのではないかと。特に生徒の男女比が相半ばするようになってから久しくなりますがここでの意識の変化。また、近年の個人情報保護の観点から卒業生情報を得にくい状況、それへの対応。また、同窓会活動が提供すべきサービスは何なのか、どのような事に取り組まなければならないのか。同窓会活動をより活性化するには、是非、皆様方の忌憚のないご意見・アイデア及びご協力を頂戴したいと切にお願いいたします。

美しい高山植物・雄大な北海道の山々をプロジェクトを使っての心安らぐひと時を過ごしました。長谷川先輩は日本山岳会北海道支部長を歴任され、現在もお元気に登山のご指導をされています。今年度は「髪結い伊三次」「雷桜」など時代小説作家として活躍の七十期の伊藤 香(宇江佐真理)さんにご講演いただきます。連日放映されるテレビから、今回の大震災で、被災地、原発避難対象地域に住まわれている方々の、故郷からひきはがされるように避難されている状況を見せつけられるにつけ、寄って立つ故郷・母校のありがたさを強く感じるものです。多士済々なOB・OGの皆さん方の集う白楊ヶ丘同窓会です。今後も故郷のにおいを感じる絆として白楊ヶ丘同窓会札幌支部をご活用頂ければ幸いです。

現状認識

白楊ヶ丘同窓会 会長 三ツ谷 富夫



第三十
一回白楊
ヶ丘同窓

会札幌支部定期総会・懇親会
のご盛会を心からお喜び申し

(第五十八期)

上げます。同窓会員による講演会、懇親会の開催・運営など同窓会活動に携わっておられる幹事の皆様のご苦勞に心から敬意を表します。また、

札幌支部の方々には本部の総会・懇親会にもご出席戴いておられますことに厚く御礼申し上げます。

今年の同窓会本部役員会は1月下旬からスタートしました。このなかで、これまで各支部長から要請がありました全国幹事長会議について、幹事長の決断により卒業式

(卒業証書授与式)に併せて開催を決定し、各支部へ出席をお願いいたしました。平日のことであり日程調整がつかず東京支部幹事長は急遽欠席となりましたが、札幌、宮城、関西の各支部幹事長・事務局長には二月二十八日午後三時に母校会議室へ参集いただきました。

本部七名との全十名で自己紹介のあと雪道で徒歩十分の函中百年記念会館へ向かいました。館内の各部屋などを視まわりながら、構内幹事の先生に利用状況などの説明を受けましたが、会館の今後のあり方については「白楊だより」にも書きましたように、利用予測をはじめ維持補修、委任の終了に伴う所有権移転登記にかかる事務処理費用の確保などの対応策について方針を明示する必要に迫られているのですが、未だに役員会へ提示できない状況です。

会議室へ戻り、各支部、本部の抱えている懸案事項について現状報告のあと意見交換の場となりましたが、総会・懇親会への八十期以降の若年層の参加者増、会員異動の連絡網の充実、会報・短信への投稿増などの対応策が共通課題として再認識されたところです。とくに関西支部からは、企業の東京移転や会員の高齢化による参集者の減少が続く

ことから先行き不安との深刻な状況も報告されました。終了後卒業式準備中の体育館をはじめ校内の諸施設を案内していただき、懇親会場へ席を移しました。八名での懇談となりましたが、札幌支部幹事長は翌日の職務のため最終列車でのお帰りとなりました。

翌三月一日九時二十分から全日制課程二百三十六名の卒業式が本校体育館で行われました。式典には卒業生の父兄も出席されますのがその数は増加続きで、毎年卒業生の最前列席が舞台に近づいております。羽織袴、ドレス、野球ユニフォームなどいろいろと趣向を凝らした衣装での卒業生の晴れ姿を、若干名であっても希望する同窓会員が参列できるようにしたいものと思えます。式次第の最後に卒業生の合唱がありますが曲目は「旅立ちの日に」で、この曲は二十年前に埼玉県の中学校教師が作詞作曲されたそうです。ご覧になった方も多いで

しょうが、民放の音楽長者番組で「卒業式の定番曲ベスト10」を見ましたがその順位は一・仰げば尊し、二・蛍の光、三・旅立ちの日に、四・大地讃頌（さんしょう）、賛美歌の意）、五・巣立ちの歌、六・贈る言葉（海援隊）、七・旅立ちの歌（和田アキ子）、八・翼をください（赤い鳥）、九・想い出がいっぱい（E.T.O.）、十・乾杯（長淵剛）となりました。

午後一時からは卒業祝賀会並びに同窓会入会式が同窓会総会・懇親会の会場でもある五島軒本店で行われ、卒業式に続き宮城、関西支部の事務局長にも出席していただき第百十三期新入会員をお迎えし、同窓会行事への参加をお願いいたしました。散会后幹事長の案内で西部地区を回り、函館駅で再会を約して別れ初めての二日間の会合を終えましたが、今後の同窓会活動にいろいろと参考になったものと思っております。午後六時には定時制課程

の卒業式で三十一名の会員をお迎えすることとなりました。こちらの卒業式は蛍の光が式歌となっております。

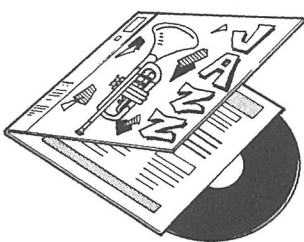
卒業式の十日後、M九・〇の大地震が発生しました。例を見ない大津波に加え、原子力発電所の重大事故も重なり未曾有の大災害となっ てしまいました。被災者の皆様には心からお見舞いを申し上げますとともに、少しでも早くの復興をお祈りいたします。

今月になってから宮城支部長と電話でお話しましたが、会員には大きな被害はなかったように伺いました。仙台市内は地震発生後の停電、電話不通により、津波などの被害はかなりの時間が経過してから知ったとのこと、小児科医の会員は被災者の治療などで多忙を極めているそうです。現地の方々のご苦労は大変なものとお察しいたしますが、ふた月を越えてもまだ現状把握が曖昧な報道が多いように感じられ残念でなりま

せん。

新学期が始まり、四月八日に全日制課程二百三十三名の入学式が行われました。これまでの塩見裕史教頭は訓子府高等学校長へご栄転され、後任は札幌北高等学校から来られた天田光彦先生です。これからも連携を密にしながらよりよい同窓会にしたいものと思っております。

最後になりますが、白楊ヶ丘同窓会札幌支部のますすのご発展と、荒川支部長（代理）をはじめ札幌支部会員の方々のご健勝とご多幸を心から祈念申し上げます。まして挨拶とさせていただきます。



たくましく、

しなやかに育て

校長

小林 雄 司



白楊ヶ丘同窓会札幌支部の皆様には昨年度と同様に今年度も本校教育の振興と教育活動へのご支援、ご高配を賜りたくここに改めてお願い申し上げます。

もう、赴任して二年目になります。忙しいとはいえない時間の早さを実感するこのごろですが、中部高校の先生方はやる気があり、生徒達は純朴で向上心が高く、そして夏は比較的涼しく冬は雪が少ない、そんな函館生活を日々感じながら、快適に申し分のない日々を過ごしています。しかしこの間にも、矢継ぎ早ともいえる教育諸問題に関する学校への多大な要請に、「こんなに急いでどこへ行く」と思いながら、生徒達も先生達も余裕のないまま振り回

言葉には不勉強で鈍感な方だったので、情けない話ですが意味をはき違えていました。最初「情をかけることはその人にとってなんの足しにもならないから止めなさい。」と考えていたのが全く正反対の意味で、

「情をかけることは人にとってではなく自分にとっていいことだからかけるべきだ。」でした。社長はわかりきっているだろうではなく、言葉の意味をきちんと説明し訓話をしました。このときの恥ずかしい衝撃は今でも忘れることはできません。言葉は正しく理解することから人とのコミュニケーションが始まるとすると、同じ言葉でも全く正反対にとらえることの怖さを知りました。だからこそ正確にわかりやすく伝え教えることが大切で、教員の心構えにも通じる重要なことでもあります。最近日本人には情が薄くなってきたと言われることがあります。ただ東日本大震災の対応を見ると、うでもないと思いますが、

いま一度かみしめてみたい言葉です。

二 人間、到る処青山あり
この言葉は明治から昭和初期に青少年たちに愛唱された漢詩の一説です。山口県生れで勤王の志士達と交友が深かった幕末の僧侶、釈月性が二十七歳の時、大坂の塾に入門する折り、詠まれた詩「將に東遊せんとし壁に題す」のなかで「清狂遺稿」に出てくる言葉です。青年の立志をあらわす詩として大変有名ですが今ではもう忘れ去られている感があります。前段もあるのですが、少し情熱が前面に出すぎるので敬遠されるかもしれません。「死に場所はどこにでもある。くよくよせず元気でやれ。」ぐらいいの意味で私は解釈します。この言葉は今では、転勤族の私が肝に銘じている言葉です。今までのいつの時でも今勤めている学校がいやだったということはありません。必ずそこには忘れられない生徒達、先生達との出会いと想い出がある

からです。だから離任する時は確かに寂しいものがあります。ただ次の学校にいればありがたいことに生徒が必ず待っています。その中には悪童たちも手ぐすね引いて待っています。函館中部高校にはそういう類の生徒は見かけませんが、逆にリーダー候補生を育てている重い責任があります。

いずれにしてもそのおかげで新たに闘志がかき立てられ、いつも元気にさせてくれます。この楽しい思いが薄れてきたとき、教員生活も終わりだと常々感じてきましたし、機会があればいろいろな学校に転動したいとも思っていました。でもそれも黙っていても終わりが近づいてきました。また長いこと家族には多大な迷惑をかけてきましたので感謝している昨今です。
三 その道を黙って歩くことだ
これはあまりにも有名な詩人、相田みつをの「道」の一説で私の好きな言葉です。ブームになりすぎてい

るのでへそ曲がりな私としては最初の作品集で五百万部を超えるロングセラー「にんげんだもの」も実はまだきちんと読んではいませんが、東京出張の際には展示している会場へはよく寄っています。どこでめぐりあった言葉だったかは忘れてしまいました。前段の「長い人生にはなあ どん

なに避けようとしてもどうしても通らなければならぬ道というものがあるんだな」に続くこのフレーズだけが妙に心にとまり残っています。相田みつをの詩はあの独特な字体の中で味わうべきなので本屋等で実際に見た方が良いと思います。現代は目言伝と鱧古のパフォーマンスが良しとされる時代、昔のCM「男は黙って〇〇ビール」時代に育った私としては言葉よりは実のある人間になりたいものだと考えていますが、でもこれだけでは駄目なんだとも反省しているのも事実です。他にも浅学ながら私が好

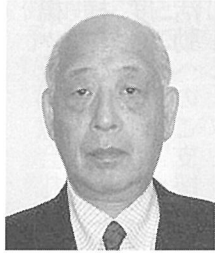
きな言葉は高校時代に触れた中原中也の「私の肩に降る雪は」、教員を目指したときに呼んだルソー「エミール」の第二の誕生、生徒の激励に使った板村真民の「念ずれば花開く」や後漢書の「疾風に勁草を知る」等々、まだまだいろいろあります。次に機会があれば紹介したいものです。

さて、話は変わりますが、晴れたある日、函館山からきらきら輝く海を眺めていたり、五稜郭界隈を散歩したりすると、それだけで時間を忘れてしまいます。よく他地方の先生方から休みの日は単身赴任でいったい何をしているのか、釣りでもないのか、温泉でもないのか、とよく言われますがしみじみと函館の美しい街並みを眺めたり、散策したりと贅沢で穏やかな時を過ごさせて頂いており、これが心の静養にもなっています。毎日あくせくして過ごしている校長にはちゅうど良いのです。最後にな

りましたが、今回は勝手気ままに思いつくままに気楽に書かせていただきました。どうか長い目で見ていただき、笑って済ませてください。ではまた函館中部高校での1年、世の中で使える人材として、たくましさとしなやかさを兼ね備えたり、ダーづくりと頑張っ出て陣いたします。応援よろしくお願いたします。



東京支部だより



東京支部支部長

安田 康次

(第六十七期・昭和四十年卒)

札幌支部の皆様には、お変わりなくお過ごしのことと存じます。

あっとい間に1年が過ぎ、またお会いできることを楽しみにしております。昨年も同期の皆様には、

暖かいおもてなしを受け、札幌ならではのおいしい料理をいただく事が出来ました。

三月には東日本大震災という未曾有の災害が発生し、被災された関係者の皆様に

心よりお見舞いを申し上げますとともにも一日も早い復興をお祈り申し上げます。幸い、当事務所は被害も無く、我々同期(六十七期)の仙台在住者は、家屋には被害が出たものの、無事が確認されており安心しております。

さて、東京支部の活動状況及び近況ですが、昨年同様、四月に評議員会を開催し、二十三年度の事業計画を承認いただき活動を開始しております。

昨年の活動報告とともに、現況を書かせていただきま

す。昨年十月に開催された第三十四回親睦大会は、前年と場所を変え、小林校長先生、荒川支部長代理をはじめ、本部、支部及び在京他同窓会役員の方々のご臨席を賜り、雨模様のひとつい天候にもかかわらず、八十期生の企画により「函館中部高校の今」を手作りビデオで、「函館中部高校のまさ

今までにない斬新な企画で行われ、総勢212名の参加で盛大な会を開くことが出来ました。

第三十五回親睦大会は、昨年同様、お茶の水「ホテルガーデンパレス」で、十月二十九日(土)十四：〇〇から開催する事が決定しております。

今年は八十一期生が企画。「函館に帰ろう」をテーマに検討中です。札幌支部の皆様にもご協力を願うことがあ

かと思ひますので、その節は宜しくお願いいたします。

毎年苦勞しておりますが、東京白楊だより第三十四号の発行も予定しており、評議員を始めとする会員の皆様の随筆・同期会報告等をお願いしております。札幌支部の方からの原稿も大歓迎いたしますので、是非投稿下さい。お待ちしております。

又、会報費用の一部を補う為、二十一年度から協賛広告の掲載をお願いして、支援いただいております。

昨年、東京支部のホームページをリニューアルし、全ページをすっきり爽やか

な見やすい画面に刷新、「東京白楊だより」の全バックナンバーを掲載しました。

今年も若い人の力を借りながら、ますます内容を充実させるために、ホームページに掲載する情報を同窓生の皆様から広く募集し、努力してまいります。

現在、ネパールに滞在中の六十八期、児玉久美子さんから「ネパールからナマステ！」という記事を連載中ですのでご覧いただければ幸いです。

その他に渉外活動として、母校、本部、他支部との交流を積極的に行い同窓会活性化に向けた意見交換、情

報収集、在京公立他校同窓会（東、西、商業、工業、当校）五校で東京臥牛会を

作り、連携強化及び郷土の発展支援を継続的に進めております。ラサール校他私立校との交流も行われております。

毎年、四月に開催されていた東校、西校との懇親ゴルフコンペ（函館巴会）は震災の影響で十月に延期されましたが、団体二連覇を目指して頑張っております。

ご不便をお掛けしております。事務所も中々良いところが見つからず、この一年間、会議等は会議室を賃借しながら運営を行い、何と

か大きな支障をきたさず過ぎせましたが、支部活動を安定的に推進できる事務所の探索を引き続き行っております。

昨年書きましたが、大きな問題の一つで、年会費納入者の長期減少傾向に歯止めが掛けられず、依然として同窓会の危機的状況は続いております。なんとかこの状況を打開すべく、今年も新入会者の親睦大会ご招待を始め、「各期最低二人の納入者増加」を目標に、また、期によってはまだ一人の会員登録の無い期もあり、当支部の大きな課題の一つになっており評議員の

皆様に期前後の同窓生に同窓会への参加を呼びかけるよう、お願いしております。

日本全体に自粛ムードがまだあるように見えますが、これからは少しでも被災地の復興に役立つような消費を考えながら、元気に行動していきたいと思ひます。

最後になりましたが、白楊ヶ丘同窓会札幌支部の益々の発展と荒川支部長代理始め札幌支部の皆様のご健勝を祈念申し上げ、再会できるとさせていただきます。

同期会紹介

往時茫茫

—いま傘寿をむかえて—

塚本 昭

(第五十一期)

「年年歳歳花相似たり、歳歳年年人同じからず」ひとの世の移ろいを唐の詩人

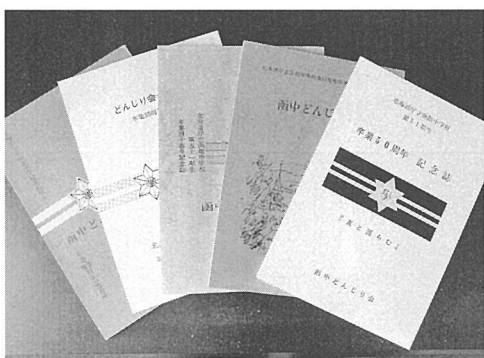
はこう詠んだ。ふと気づくと八十路へ突入した私たち「函中どんじり会札幌支部」

の仲間も、白楊ヶ丘同窓会名簿では上席に位置するようになってしまった。

言うまでもなく函中五十一期「どんじり会」はその愛称のとおり旧制中学校の最終の卒業生である。生徒の学生改変に遭遇し、四修・五卒・新制高校卒と三つの体制の卒業生計三五〇名が古き学舎を築いたのであ

たが、今年四月の統計では一五七名の学友がすでに鬼籍に入られたという。激動の昭和を粗食に甘んじ猛烈社員、仕事人間として社会を支え、昭和一桁は頑張りがきく“とばかりに奮闘した結果がこの数にあらわれているのではないかと思ったりもしている。

さて、この度白楊ヶ丘札





幌支部の幹事さんから草創期の支部同窓会の回想をとの寄稿依頼をお受けしたが、実は私が道内各地での仕事を終え札幌市へ落ち着いたのは平成三年、古くから札幌及び近郊都市の発展を支えた仲間から話題提供を願うのがベターだとは思いますが、幸いなことにどんじり会のメンバーとの度々の交流の中から幾多の情報を得ているので古き良き時代を懐かしく思い起こし筆を進めたいと考えた。

いま手元にある白楊ヶ丘同窓会札幌支部報第九号が私にとっての最も古い資料であるが、この発行月日が平成二年六月であるから少なくとも支部報第一号は昭



和五十六年の発刊ではないかと思っていたが、第二十二号編集後記に昭和五十六年二月支部設立と同時に先輩工藤欣弥氏が編集を担当されたとの記述があり確認出来た。

B5版の各号には厨川勇、工藤欣弥、原子修各氏を

はじめ有力メンバーの寄稿があり、回想の函中に心躍る思いをかきたてられたが、支部報十一号にどんじり会の文人田辺淳一君が箏球・陸上競技の選手として二度も国体に出場、後に難関突破し早大に学ぶことになったくだりをさりげない筆致で述懐しているのを読んで、彼の文武両道の才に改めて畏敬の念を覚えたのであった。爾来今日までいろいろな意味で彼には頭が上がりない。

私が札幌に仲間入りした頃の支部長さんは三浦祐晶氏、副支部長にどんじり会の高橋次郎君が就任してお

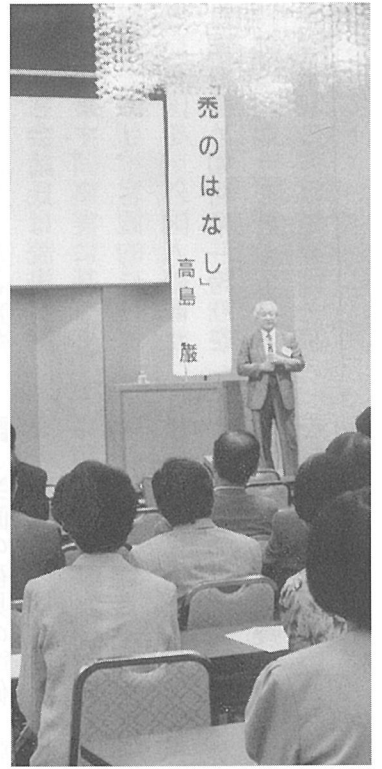
り、支部総会はセントラルパークのホールを貸切り、函館からは学校長、同窓会役員諸侯を迎え盛大に開催されるのを常としていたが、後にこの施設がなくなり市内のホテルが会場となった。函中を四修で北大予科へ進み医者になったどんじり会の秀才高島巖君が三浦会長のおとを継ぎ昨年まで長い間支部長を勤めたが、本人は「何年続けたかな」と超然としている。藤井昭市君を筆頭に数多くのどんじり会のメンバーもここ十数年彼の案内を受けて参集したが、若手起用を言明した結果、永年の労苦から解放されることになった次第である。

支部総会には、本校を卒業後卓越した才能を発揮し社会に貢献している才人を迎えて特別講演をお願いする習わしになっているが、



どんじり会仲間高島巖君の「禿のはなし」と早坂茂三君の「政界よもやま話」には同期生として格別の思いを込めて傾聴したのであった。

傘寿を迎えた私ども五十一期、札幌や近郊市町村に三十余名が在籍、うち概ね二十名は家族同伴の旅行会、年四回の気楽に杯を交わす



きらく会、同行者によるゴルフ・囲碁の集いなど行動範囲は往年といささかも変化なく和やかな交流を保ち続けている。

今年も白楊ヶ丘札幌支部

総会が近づき、すでにご案内をいただいた。

支部活動を生き生きと継続させるために少しでもお役に立てるとすれば、高齢者の私どもが元気で参加するほかにないと考えながら時至るを待っているところである。

歳をとればいたずらに回顧にふけるものだと言われそうだが、古めかしい校舎の色、廊下のきしむ音、重く沈んだ中庭のにおい、こ



れぞ青春の香みなぎる育英の場函中であつたと、いま改めて紅顔の頃の生き様を噛みしめている。

同期会紹介

草創期の白楊ヶ丘同窓会 札幌支部の回想と 最近想うこと

地崎 夫 美

(第五十三期・昭和二十六年卒)

表題について原稿依頼を頂きましたが、想起起すと、私は草創期というより、少し後の大方の骨組みが整った頃、諸先輩と土台作りをされた同期の漆久保一郎氏から、「中部高校も男女共学になって、久しいのに、同窓会の役員に女性が一名もないのは可笑い」という意見が出たので……男女共学第一回卒業生の女性として、副支部長にという、事後承諾の形で、役員会に参加させて頂く事となりました。その少し前札幌支部設立総会は、忘れもしない昭和五十六年三月七日に、札幌三越デパートの大食堂で開かれ、二百八十七名と

大勢の出席で大盛会でした。今から三十年程前で立派な男性先輩が多勢で、女性はやはり少数という状態でした。それから毎年一回、開かれる総会の準備は当時財政もあまり楽でなかったので、幹事長さんの五十嵐法律事務所に、役員、常任幹事さんが集り、先ず名簿の整理、札幌は役所会社関係等、転勤の出入りが頻繁なので、住所変更をそれぞれ手分けをして、各期の幹事さんに問合せ、印刷迄の下準備をし、副支部長さんの厚谷純吉氏(五十七期)の関係される社会福祉法人北海道リハビリに安くてお願い、

それから総会の名札作り、席割り、受付けの準備、案内の封筒は皆で手書きで、など、など……当時副支部長で先日亡くなられた高橋治郎氏(五十一期)(私と同期の奥様)を始め、とても和氣藹藹で楽しくお手伝いしたものです。

さて私達が卒業迄の一年間、学んだ中部高校(昭和二十五年)には未だ戦後のショックから誰れもが立直れないでいる中、気骨のある先生が、大勢おられました。今でも先生方のお言葉は心に鮮明に残り、私のその後の生涯の指針となっている気が致します。

その一つに「今は戦争に負けて何も彼も悪いように言われているが、日本には他の国に無い優れた文化、その他にも沢山の良いものがある。若い君達は、それをしっかり目を明けて学ぶように」と静かに堂々と話された。確か受験の為の英語の補習授業、越田先生でした。

正に今の日本を見越され

て警告された様に感ずるお言葉でした。

昨今の日本の社会は、毎日の様に新聞には我が子を虐待したり、果ては殺し、又親を金銭の為に殺し、年寄りを騙す振り込め詐欺、公務員の年金記録の改竄、預っていた将来の年金を不用の建築物に使ってしまう等、等、更に無差別殺人と、少し前迄は我が国ではあり得なかつた犯罪が頻りに報道されています。日本の道徳律は今や何処に……何故この様な世の中になってしまったのか？私に此の疑問に答えて頂けたのが最近読んだ、藤原正彦著（お茶の水女子大教授「国家の品格」と「日本人の誇り」という本でした。二六八万部とベストセラーになった著書なので同窓会諸氏は読書済みと思います。事実に基づく資料をあげ、客観的に日本という国を、外国人の観た日本も含め如可に「誇りを持つてゐる国か」を著して居ます。未読の方は是非御一読なさって下さい。

“戦争は再びしてはならない”これは誰れもが思っている事です。戦争に負けるという事は負けた国がすべて悪とされるのは仕方のない事、ではあつても真実は、必ず明かされる時が来る、という思いを抱かせて頂けました。

日本の本当の歴史を、大東亜戦争に至る。表から、そして裏からの事実を顕正されています。私の持っている拙い知識、今迄見開いて記憶にあり疑問になっていた事の、答えが随所に書かれていました。

けれども反面、今NHKテレビ朝のドラマ“おひさま”では、女教師が先生としての勤めをきちんと果しながら、更にお茶出しは勿論、当直の夜具の準備、朝夕の職員室の掃除、と家事に類する事は女性教師の当然の仕事として、男性教師は悠然と将棋に興しながら、今ならセクハラで訴えられる様な女性を侮蔑する言葉を笑いながらはく姿に、戦前では当然の光景であつた

であろうと思ひ、戦後、得られた婦人参政権、今では当然となつた男女平等の精神を大切にして、人間の不平等について権利を求めて来た先人の苦勞に感謝して、更に今回の東日本大震災で、被災した人達は、家族も、家も、船も、田圃も全部失うという中、極限状態の時に發揮された、日本人が古来から持っている人としての生き方、助け合い、お互いを思いやるという姿に世界中が感動したという報道に、考えさせられたのは、私始め被災者以外の日本人全員が、あまりにも贅沢に慣れ、不平不満をつのらせ、個人の権利のみを主張する傾向の現在、人間として大切なものを失いかけた事への、反省する機会を頂いたと思ひ、古い日本古来の物の見方、考え方の良い所を残し伝えて、いかれます様にと願う此の頃です。

そして同窓会、同期会にある良い事は、一瞬にして若き日の関係が得られ、心の安らぎ、楽しい一時が共

に過せる事にあります、その上に、今では薄れつつある、人間関係を、同じ学び舎に学び、教えられた白楊魂

平成22年度収支計算書

収入の部	
科目	金額
前年度繰越金	2,211,284
年会費	350,000
終身会費	115,000
総会懇親会費	280,000
雑収入	40,000
預金利息	630
収入合計	785,630
収入の部合計	2,996,914

支出の部	
科目	金額
総会懇親会費	280,116
講演会費	50,000
印刷費	239,584
通信費	182,335
旅費交通費	90,000
会議費	52,500
事務費	14,914
振替手数料	21,880
雑費	60,554
支出合計	991,883
次年度繰越金	2,005,031
支出の部合計	2,996,914

財産目録	
種類	金額
現金	15,049
振替口座	699,120
郵便貯金	1,290,862
合計	2,005,031

一、質実剛健：飾り気がなく真面目で強くしっかりしている
一、堅忍不拔：堅い意志で耐え忍び確固として動じない
一、不撓不屈：困難にあつてもひるまずくじけない
を踏まえた上で、社会で頑張り、時には助け合いもあ

る暖かい会であれば等と老婆心で思ひます。
最後に私、事故の為、股関節手術で三年間入院で副支部長の任も平成十五年六月に、川島ハツヨさんに無事バトンタッチ、退任の挨拶も出来ない儘、何か気掛りで居ましたが、今日連れ走せながら、支部報をお借りして、これと言つてお役に立てなかつた事をお詫びし、母校並びに白楊ヶ丘同窓会札幌支部の御発展を祈念致しまして、お世話になりました高島支部長さん、始め、役員、常任幹事さん、各期幹事さん、藤田幹事長さんの皆様に心より御礼申し上げます。
本当に有難うございました。

激動の時代を生きて

吉田 恭平

(第五十四期)

非常に大きな変化の流れが特長の時代だったと思う。

世界史でも最大の戦争、悲惨な原爆の洗礼、敗戦後の猛烈な飢餓とインフレ、激しい学生運動や労働争議、昭和四十年頃からの猛烈な高度成長、バブルの時代、そしてバブルの崩壊とともに訪れた不況の時代、阪神淡路大震災、東日本大震災と巨大津波、福島原発の炉心溶融。世界の眼は日本の科学技術と統治能力に対し、厳しく監視している、がんばれ日本である。

昭和十五年、紀元二千六百年というところで、記念祝賀会と旗行列があった。翌年には大東亜戦争勃発し、戦時一色の厳しい時代が続いた。米や石炭をはじめ魚味噌、正油、衣類、長靴、運動靴まで配給制であり、

家中の金属類は全部抛出。

お寺の鐘まで武器に変身した。昭和二十年七月十四日、

七飯の疎開先から一時帰省していた時、大森浜上空に飛行機の編隊を見た。高射砲が発射されたので敵機と分かった。函館港に停泊中の連絡船が空襲された。機銃掃射のダダダ……という物凄く怖い音が耳元が鳴る、家の押入れでフトンを被って震えていたのを憶えている。昭和二十年八月十五日、疎開先で玉音放送を聞いた。昭和二十一年。簡単な口

答試験のみで函館中学校への入学が許可された。夏、第二十八回全国中等野球大会で活躍された選手たちによる報告会が体育館であった。食糧をリュックサックにつめ込んで遠征先の大阪まで三日間かかったこと。

一回戦不戦勝で二回戦の相手が山形中学で試合後、残ったおもしろい山形米が贈られたこと。三回戦は名投手平古場の浪商に善戦空しく涙をのんだが堂々たるベストエイト進出で北海健児の意気があがったことの報告に

対し大拍手であった。学校制度だけを見ても小学校は尋常小学校から国民学校、旧制中学校から新制中学校、そして道立高校、函館中部高校と変り、学区制変更による函中・市中・高女・市女の統合による合併で男女共学が始まり、今の東・西・中部高校ができた。昭和二十年代であった。それだけに苦楽を共にした同期の絆は強く、今でもよく集まって交流している。

一回戦不戦勝で二回戦の相手が山形中学で試合後、残ったおもしろい山形米が贈られたこと。三回戦は名投手平古場の浪商に善戦空しく涙をのんだが堂々たるベストエイト進出で北海健児の意気があがったことの報告に

「函中二十一会」：昭和二十一年旧制函館中学に最後に入学した者の同期会で、主に函館・東京で開催されていたが、今年札幌で予定している。

昭和三十一年から平成十五年までの四十六年間、民間会社で働いた。勤務地は東京・函館・札幌・小樽・函館・札幌と転々した。平から社長まですべての役職を経験し、市民の生活の向上に寄与し、社会に貢献できたと自負し悔いはない。「足るを知る」の心で極力欲を押さえて笑顔で生活してきた積りである。通勤は主として徒歩プラス公共交通機関の利用で、車は専らゴルフ・スキー・買い物用である。考えてみれば、スピード時代の現代においては「歩く」ということは、ある意味で大変贅沢なことである。健康で長寿を保つには自然に逆らわない生活をすることだと言われている。食事・睡眠・運動を上

手に組み合わせて、折角両親から授かった生命を大切に扱い、天寿を全うしたいものである。振り返ってみれば随分多くの皆さんのお世話になってきた。十分な恩返しができないのが歯痒い。

「五楊会」：昭和二十七年函館中部高校を卒業した

頭の体操には趣味の囲碁が役立つ。勘が働き、読みが入るからである。六十才で四段、六十二才で五段、六十八才で七段の免状を取得した。さらに研鑽を積んで実力を養成して行きたい。

今年の正月、子供達の後押しもあって、夫婦揃って元気なうちにということでも南極クルーズに挑戦した。十二月二十日、ブラジル、リオ・デ・ジャネイロで大型客船スタープリンセス号(十萬九百トン)に乗船し、二十日間の航海に出た。乗客は四十八ヶ国二千八百名。南極大陸に上陸したわけではないが、南緯六十五度まで南下し、南極大陸北端部沿いに航海を続け、Uターンして南米大陸最南端のホー

ン岬を一月一日に通過、マゼラン海峡を通り北上した。大小様々な氷山・多種のペンギン・アザラシ・オタリア・鯨・海鳥と遭遇しながら、夜空に南十字星を見ながらチリ・アルゼンチン・

ウルグアイの主要都市、島々に寄港し、上陸し観光した。一月九日二十泊したスタープリンセス号をアルゼンチンのブエノスアイレスで下船後、市内観光へ。タンゴの発祥の地、カミニート、

エヴィータの墓地があるレコレタ墓地などを訪れた。プラタ川沿いのおしゃれなレストランで最後の夕食の後、郊外にある国際空港へ。深夜飛行機はサンパウロへ向け出発した。サンパウロ

を經由し約十八時間のフライトを経て翌十日、中東カタルのドーハに到着、航空機を乗り換え、関西空港まで更に九時間のフライトでした。十一日の午後五時前、関西空港で降り、保安

検査を経た後、千歳空港に向かった。帰宅したのは深夜でした。未知の世界を数々知見し、豊かな自然を満喫した思い出多い旅でした。

同期会紹介

想いだすままに

厚谷 純吉

(第五十七期 昭和三十年卒)

過日支部報担当の幹事の方から、お手紙を頂き原稿を書けとの指示を頂いた。内容は草創期の白楊ヶ丘同窓会札幌支部の回想などのことである。私が札幌に来ることになったのは釧路保健所勤務から道庁の衛生部保健予防課に勤務することになった昭和六十年一九八五年のことである。その当時すでに同窓会はスタートしており年一回の総会を三越デパートの大食堂で開催しており卒業年次で当番を決め会食費と年会費を同時に徴収しておった。名簿

は存在していたが発足当時に作成されたものがほぼそのまま印刷されておった。その当時から私は二度引越しをしており資料等は無くしておるのであまいな記憶で書いているので正確さを欠いていることがあることはお許し願いたい。同窓会活動を継続的に活発化していくには出身の母校のある本部での活動と母校を離れた地域での活動と違いがある。本部での活動は母校の歴史と関り合いながら母校の発展などを目指し活動を展開することが

できる。母校を離れた地域での同窓会活動は？。

当時私たちは札幌での同窓会を形にするため、①名簿を確定すること、②会費の徴収を行い財政的基盤を築くこと、③総会の参加者

を増やすことなどを目標とした。当時幹事長をされていた五十嵐法律事務所を拠点として何回かの会議を開き、まず名簿の確定作業を行った。

当時の名簿は卒業年次、氏名、現住所、職業・勤務先、電話番号等が記載されるのが常識的であった。これらの情報は各卒業年次ごとに割と収集されていた。私は名簿の担当を引き受けておりまだパソコンが普及していない時代であり私は記憶装置のない東芝ルポをたたきながら各卒業年次ご

との核となれそうな方に連絡をして名簿作成にあたった。その期によっては確実な名簿を作成している期も多くあった。

名簿確定後年会費の納入方法を依頼する文書をおくったが確か最初のときには四〇〇名以上の方から納入があったと記憶している。

総会の参加者を増加するため総会と・総会の間に幹事会を開催し浸透を計ったりし、また総会の場をスキノの真ん中にある会場を設定したりして余興を行うプロの方の参加を頂いたりして宴を盛り上げることを行った。

その後、五十嵐幹事長は日本弁護士会の副会長に就任し、幹事長は藤田幹事長にバトンタッチされた。この当時に会長に就任した高

島会長が同窓会の東京支部で取り入れていた講演会と総会を同じ日に行っていた方式を札幌でも取り入れてはと提案があり現在の方式で総会が行われるようになった。

母校の地を離れた地域での同窓会活動を継続的に展開していくためにはどのような方法があるのかはなかなか答えがでてこない私の現状である。名簿作りというみんなが力を合わせて共同作業を行う事業は個人情報保護に関する法律ができて以来いろいろな同窓会活動に影響力をあたえてきた。若い同窓生の諸君の創意工夫でこれらの困難を乗り越えて前進することに期待を寄せている。

映画研究部の想い出

藤田 美津夫

(第七十二期 昭和四十五年卒)

私が中部高校に入学したのは昭和四十二年である。

そのころ、日本は高度経済成長の真っ直中にあつたが、一方でイタイイタイ病などの公害が社会問題となり、間もなく大学紛争が深刻化する時期である。国外では、ベトナム戦争が徐々に激しさを増し、ソ連軍がチェコスロヴァキアに侵攻するという出来事もあつた。

さて、編集者から高校時代の思い出などを書くようにとのご指示なので、クラブ活動のことについて思い出して書いてみることにする。

一年生の時は剣道部に入つた。しかし、もともと運動神経が鈍い上に、ひどい近眼で、眼鏡を外して防具をかぶると相手の動きがよく見えなくなってしまうため、これはとても自分のできる

スポーツではないと思い、一年間で辞めてしまった。一緒に入部した栗沢朋正君には申し訳なかつたと思つている。栗沢君は、その後も剣道部に残り、大活躍したと聞いている。

剣道部を辞めた後、二年生の時に映画研究部に入ることにした。入部当初は小人数のクラブだったが、徐々に部員が増え、三年生の時には結構な人数になつていた。同期では、高橋郁代さん、加藤富久子さん、吉川龍治君、永井久雄君、鈴木直弘君、会田雅樹君、青柳康二君などが参加しておられたと思うが、記憶が曖昧になつていて、全メンバーの名前を挙げる事ができない。

映画研究部の活動としては、とにかく映画を見ないことには話にならないので、

各人が封切館で上映される映画はもちろんのこと、二番館や名画座で上映されるものも含め、話題の映画や名監督の作品は片端から見に行った。メンバーそれぞれが気に入つた映画の評論を書き、年に数回、ガリ版刷りの冊子を作り、各教室の掲示板に吊して回つた。当時見ていたのはほとんどが洋画で、高校生のレベルでどれだけ理解できていたのかは分からないが、フェリーニ、ゴダール、パゾリーニ、ベルイマン、ヴィスコンティなどヨーロッパの監督の映画を好んで見ていた。

また、当時、アメリカ映画ではニューシネマと呼ばれる動きがあり、そのような映画もよく見に行つていた。毎月一回、成人映画専門館を除く市内の映画館をすべて回り、翌月の上映予定を聴き、これを一覧表にして、各教室に掲示すること

もやっていた。そして、封切館を回つたときに映画の前売券を預かつてきて、休み時間に教室で販売した。口コミで結構売れたと記憶している。学校内でこのよ

うなことをやって良かったのかと心配になるが、当時は何の疑問も抱かずにやっていた。おそらく顧問の杉江先生も大目に見てくださったのではないかと思う。

当時、前売券で大変よく売れたのは、アメリカン・ニューシネマに属する「卒業」と「俺たちに明日はない」、ヨーロッパの映画では「ロミオとジュリエット」だった。

このような活動をしていると、映画館の管理者とも親しくなり、試写会の招待券をもらつたり、映画の配給の仕組みについて話を聞いたり、映写室に入れてもらつたり、嬉しいことも色々あつた。

三年生の時だつたと思うが、白楊祭で「キューポラのある街」を上映した。映写機の操作がよく分からなくて、画面がうまく横に広がらなかつたため、少し見づらかつたが、吉永小百合や浜田光夫が登場すると、会場から歓声が上がつたことを覚えている。

高校時代は、ずいぶん映画に時間を費やした。映画

はフィクションでありながら、人間や社会のリアリティを描いていて、感受性が豊かであつた時期に、暴力や性、社会の不条理などのテーマに触れたことは、自分の成長にとって幾分かの意味はあつたと思つている。しかし、いまにしてみれば、もっと読むべき本や経験しておくべき事もあつたと思うが、もう取り返しがつかない。

大学に進んでからは映画から遠ざかつてしまつたが、十数年前に映画が気になり出して、頻繁に映画館に通つた時期がある。しかし、コンピュータ・グラフィクスが発達して、映画が様変わりし、良い映画を探すのも面倒になつたため、この頃では、ほとんど見なくなつた。スリッドの技術も発達してきたようであるが、そういうことにはあまり関心はない。最近の若い人たちが映画を見るのがどうかはよく分からない。中部高校には、いまも映画研究部があるのだろうか。

講演会

「私が時代小説を書く理由」

講師 うえざ まり 氏
宇江佐 真理 氏



講師のご紹介
ご略歴

- 1968年3月 函館中部高等学校卒業(第70期)
- 1970年3月 函館大谷女子短期大学卒業
- 1970年4月 函館日産自動車(株)入社
- 1975年 同社を退社 同年秋、同盟石油(株)函館支店入社
- 1979年 結婚のため同社を退社
- 1995年 オール讀物小説新人賞受賞
- 1999年 「髪結い伊三次」がフジテレビでドラマ化(主演中村橋之助)
- 2000年 吉川英治文学新人賞受賞
- 2001年 中山義秀文学賞を受賞
- 2002年 函館市文化賞受賞
- 2010年 「雷桜」が映画化(主演蒼井優・岡田将生)

函館中部高等学校校歌

作詞 函館中部高等学校教諭

藤原直樹

作曲 函館中部高等学校教諭

酒井武雄

一、火柱のはためく峰も

年古りて緑の臥牛

宇賀の浦風の砂山

波よせてくずれ流るる

見よや物なべてうつろふ

窮みなし流転の相

二、北の国雪深けれど

その底には草は芽ぐめり

野山荒れ鳥潜めども

やがて来ん春の光に

万象の蘇る見よ

ここにあり不滅の生命

三、白楊のささめく丘辺

秋深き梢仰げば

冴え渡る銀河の彼方

幽けくぞ星雲燃ゆる

胸に満つ久遠の思ひ

遙かなり真理の彼岸

四、限りなき流転の中に

生命あり不滅の学び舎

聞けや今窓の外遠く

新潮の入りくるひびき

よしさらば若人われら

踏まかな希望の門途

函館中学校校歌

(同窓会歌)

作詞 第二高等学校教諭

土井晩翠

作曲 東京音楽学校教授

岡野貞一

一、玄冥の北の一道

関門の岸に臨みて

青春の薫にしろく

基おく育英の場

二、集い寄る千余の子弟

人生の花の綻び

身を鍛へ心を練りて

向上の一路を辿る

三、宇賀の浦万頃の水

駒が岳千仞の山

微を積みて高きに至り

滴より空をもひたす

四、形ある無言の教

仰げ我が紅顔の子等

業成らば双の方の上

興国の運も負へかし

五、母校の名子弟の誉

花と香と常に伴ふ

任重く道の遠きを

嗚呼健児勉めざらめや

●同窓の声●

体調不良につき欠席します。
ウォーキング、囲碁、酒等、何とか元気です。よろしく。
我々の年代も病氣・死亡が多くなり淋しい限りです。同窓会でも老境となりました。
平成23年4月1日付で東京入国管理局成田空港支局へ転勤しました。
また4年間札幌支部会員になれます。ご心配いただきありがとうございます。
明日があるという限り、ゆっくりり歩こう。元気よく……。
北海道看護協会に転職しました。多忙で参加できず申し訳ありません。
前期高齢者の仲間入り、終身会費を納めます。(継続は力なり)
腰痛がひどく夜の外出は自粛しておりますため今回も欠席いたします。
高齢者マンションに転居しました。総会は欠席します。
体調が良くなる現在自宅療養中のため今回も欠席いたします。
千田栄治は5月12日に死去いたしました。長年の御厚誼に感謝いたします(家族)
変わりなく元気しております。
転居しました。
永らく役員としてお世話になり、有難うございました。総会・懇親会費を送ります。
速いもので卒業後59年もたっていました。歳も81歳、馬齢も重ねましたが、気持ちだけは若く空気で頑張っています。
いつもご連絡有難うございます。宇江佐真理さんの講演楽しみに参ります。
楽しみです。参加させていただきます。
学校祭当日であり欠席します。

- S 14年卒 (40期)
 - S 23年卒 (51期)
 - S 27年卒 (54期)
 - S 46年卒 (73期)
 - S 42年卒 (69期)
 - S 23年卒 (51期)
 - S 50年卒 (77期)
 - S 36年卒 (66期)
 - S 18年卒 (45期)
 - S 20年卒 (48期)
 - S 28年卒 (55期)
 - S 12年卒 (40期)
 - S 30年卒 (57期)
 - S 42年卒 (69期)
 - S 49年卒 (50期)
 - S 20年卒 (定2期)
 - S 42年卒 (69期)
 - S 36年卒 (定18期)
 - S 46年卒 (73期)
- 神栗 澤尾 平嶋 小井 東松 大千 佐川 中進 安藤 黒
原口 埜出 谷松 本出 尾越 田藤 崎村 藤藤 本田
徳勇 悟善 陽順 重和 義辰 栄京 泰嘉 嘉良 牧文 信
弥介 郎久 子吉 弘子 信孝 美治 子二人 一子 子彦